

中川正春の永田町かわら版

2004/10/15 第224号

三重事務所 〒513-0013

鈴鹿市国分町453-7

TEL : 0593-73-3933 / FAX : 0593-74-3088

東京 議員会館 〒100-8981 千代田区

永田町2-2-1衆議院第一議員会館428号室

TEL : 03-3508-7128 / FAX : 03-3508-3428

衆議院三重2区総支部連合会

衆議院議員中川正春事務所

※配信不用の方はお手数ですが

ご連絡ください。

URL <http://www.masaharu.jp> / e-mail g03063@shugiin.go.jp

お知らせ

- 11月21日 亀山・関地区よつば会(女性の会)主催京都方面バス旅行 参加者申し込み大歓迎
- 10月・11月 鈴鹿地区、四日市小山田地区後援会、東京への一泊バス旅行
楽しい後援会の行事を企画して下さい。そして中川正春も仲間に入れてください。

○台風の爪跡に、災害救助法確定

次から次へとやってきた台風の爪跡が全国に残っています。地元の三重県では、宮川、海山、長島、伊勢と津が災害救助法や被災者再建支援法の適用を受けることになりました。その他尾鷲や鈴鹿の一部でも道路などの冠水、床下浸水などがありました。**宮川や海山に激甚災害の適応が受けられるように、政府とかけあって頑張っています。**

先日、現地に入った時には、500から600人のボランティアの皆さんが小雨の中をドロだらけになって後片付けをしていました。被災者の方々と一体感にとても胸を打たれました。

○臨時国会はじまる。民主党は元気。

13日の代表質問を皮切りに、国会がフル稼働に入りました。この臨時国会では、具体的な重要法案は、限られたものしかありません。日歯の橋本派への一億円閣献金に対して、政治資金規正法の改正。凶悪・重大犯罪に対して罰則を強化する法案。日本とメキシコの自由貿易を目指す条約批准。為替先物取引の被害を防止する法案や、信託業法。選挙の時から懸案である年金関連法。発達障害支援法。民主党提出で災害被災者の住宅再建の本体に対する支援を可能にする法案改正などが主だったものです。

一方で、法案以外の課題で、国会で議論して選挙を通じて国民に結論を出してもらわなければならない大事なテーマが幾つかあります。

まず、**来年度の予算編成**。700兆円を超える大変な赤字を来年の予算では、具体的にどこまで縮減できるか。10年間かけてこれ以上赤字が発散しないレベルまで一定額を縮減する事が政府の約束ですが、去年は逆に赤字幅は増大しました。**地方への財源移譲**は、去年のように、補助金を

削るだけで地方への移譲はなしと言うごまかしは効きません。私たちは、知事会や市町村会などからでてきた財源移譲案を中心に応援していこうと思っています。**税制改正**に向けての関係団体の聞き取りもはじめました。全部で50団体を超えることが分かりました。

アメリカ軍の再編で日本の基地問題と日米安全保障の再定義が必要です。**イラクの自衛隊派遣の期限**が12月で一旦切れることになるので、この辺で撤退のタイミングをハッキリさせることが大切です。

教育基本法の問題も含めて、**現在の子供達の現状に対する政策目標**をハッキリさせる必要があります。

年金、医療、福祉の新しい持続可能なシステム構築を本格的に進める議論がいろいろあります。さらに、小泉さんのこだわりの**郵政の民営化**があります。

民主党の中は、皆が問題を手分けしながらフル稼働で走り始めています。本会議場での初日に、民主党に比べて、小泉さんや自民党がエラク元気がないとマスコミに書かれたことがこたえたのか、2日目以降は、大声で原稿を読む姿が見られました。

○幸運な一日。

女優の竹下景子さんに遭遇しました。

新幹線では、切符を買わずに入ってきた列車に飛び乗ってしまう事が多いのです。先日も、あいた席にとりあえず落ち着いて、列車の出発を待ちました。そこに、少し小ぶりな、とてもかわいいメガネの女性が来て、「すみません、そこは私の席のはずですが。」と言われる。バツが悪く、申し訳ない思いで席を立ち、そのまま、他の席に移ろうとしたのですが、そこで、「ひょっとして……。」という予感が。そのまま、隣の席に落ち着いて、彼女が名古屋駅名物、味噌カツ弁当を食べ始めるのを見守りました。胸の高鳴りを抑え、ころあいを見計らって、「ぶしつけに失礼ですが、竹下景子さんでは？」と訊いてみました。お箸をかかげたまま、「そうです。」と、あどけない返事が返ってきました。やっぱりメガネをとれば、本物だったのです。それから、東京駅につくまで一時間半。話に花が咲いて、味噌カツの匂いとともに、私にとっては、極上の時を過ごさせていただきました。ただ、何を話していたかは、あまり覚えていないのです。